



2026 年 10 月 1 日（木）
株式会社 unerry（東証グロース・証券コード：5034）

株式会社 unerry 第 11 期定時株主総会 質疑応答

当社は 2026 年 9 月 28 日(月)に第 11 期定時株主総会を開催いたしました。

当日ご参加いただいた株主の皆さまからの全てのご質問とその回答に関して要旨を公表いたします。

Q：AI の計算リソースや処理コストの制約がなくなった場合、将来的にどのようなことを実現したいと考えていますか？

A：当社は、現実起きた行動データを保有していますが、計算リソースが十分に確保できるようになれば、「別の施策を行っていたらどうなっていたか」「別の行動を選択していたらどうなっていたか」といった、実際には起きなかった世界についてもシミュレーションできる可能性があると考えています。さまざまな未来をデータ上でシミュレーションできる世界を目指しています。

Q：量子コンピューターの活用について、どのような方針や可能性を考えていますか？

A：現時点では、量子コンピューターに関する具体的な取組みは行っておりません。一方、膨大な選択肢の中から最適解を導き出す領域は、量子コンピューターが強みを発揮し得る分野であると考えています。現状ではコストや実用性の面から直ちに活用できる状況ではありませんが、関連企業との情報交換を行いながら、適切なタイミングでの活用を検討してまいります。

Q：ワールドモデルについて、現在の PoC の実施状況や今期の事業規模を教えてください。

A：ワールドモデルを事業として組織的に推進し始めたのは今期（2026 年 7 月）からであり、まだ立ち上げから 3 か月弱の段階です。具体的な社数については開示を差し控えますが、すでにいくつかの PoC が進行しています。現段階はあくまで PoC のため、今期の業績に大きな影響を与えるものではありませんが、来期、再来期、さらに中長期において売上高を構成する重要な事業として育成していきたいと考えています。

Q：IR 開示に関して、出来高動向から個人投資家の取り込みが重要と考えます。十分な読み込みの時間をとれない朝 8 時 30 分に IR 情報を開示している意図を教えてください。

A：市場が開く前のできるだけ早い時間に情報をお届けしたいという考えから、朝 8 時 30 分に開示することがあります。一方で、株主・投資家の皆さまが情報を十分に読み込む時間を確保するという観点も重要であると認識しており、いただいたご意見については、今後の情報開示の参考としてまいります。

Q：IR 開示において、相手先のある案件での難しさは承知しておりますが、具体的な業績貢献の規模を投資家が期待できるように教えていただきたいと思います。

A：業務提携等については相手先企業との関係もあり、開示できる情報には一定の制約があります。一方、株

主・投資家の皆さまに事業への影響や将来性をより具体的にご理解いただくことは重要であると認識しておりますので、今後も可能な範囲で業績への貢献や事業規模等について情報開示の充実に努めてまいります。

Q：ブログウォッチャーとの統合を機に、事業内容が分かりやすい社名への変更を検討いただきたいです。

A：「unerry」という社名から事業内容を直感的に想像しにくいというご意見があることは認識しています。一方、小売、外食、公共交通、自治体など、当社が事業を展開する業界では「unerry」の認知度が高まっており、これまで築いてきたブランドをさらに深めていくことにも大きな価値があると考えています。社名変更についてはこれまでも考えてきましたが、現時点では現在のブランドを育てていくことが適切と考えています。事業内容をより分かりやすく伝えていくことについては、引き続き課題として取り組んでまいります。

Q：ブログウォッチャー社のグループイン後、具体的にどのような統合効果・シナジーが生まれていますか？

A：具体的な金額や発現時期については現時点では申し上げられませんが、両社の強みを組み合わせた取り組みはすでに進めています。ブログウォッチャー社は、型化した商品・サービスを幅広い顧客に展開することに強みがある一方、unerryは顧客ごとの課題に合わせてデータやサービスを深く提供し、顧客単価を高めていくことを強みとしています。「広げる」力と「深める」力を掛け合わせることで、顧客基盤の拡大と顧客当たりの提供価値向上の双方を進めており、今後の統合を重要なマイルストーンとして、さらなる成長機会の創出を目指してまいります。

※なお、ブログウォッチャーのM&Aに伴う2027年6月期におけるのれん償却額については、2026年8月13日公表の[「2026年6月期 通期決算説明資料」p.17](#)において、46百万円と開示しております。

Q：社長の事業に対する強い熱量は、どこから生まれているのでしょうか？

A：当社が現在まで成長してこられたのは、社員、お客様、株主・投資家、パートナーをはじめ、多くの方々からの支援があったからだと考えています。その中で、当社がさらに成長し、次の社会をつくる世代や他の業界にも良い影響を与え、日本だけでなく世界をより良くしていくことは、当社の使命の一つだと考えています。私自身に熱量があるというよりも、多くの皆さまからいただいたご支援や期待を表現しているのが私であると考えています。

Q：「実際には起きなかった世界」をシミュレーションできるようになった場合、具体的にどのような社会課題の解決に活用したいですか？

A：例えば災害時に、避難指示をより早く出していたらどうなっていたか、異なる防災計画だったら被害がどう変化したか、といったことをシミュレーションできれば、将来の防災やまちづくりに活用できる可能性があります。また、企業活動においても、新しい店舗を出店した場合や、ある商品を配置した場合の売上への影響など、まだ実際には起きていないことをシミュレーションできれば、より良い意思決定につながられます。

Q：提供している価値に対して、現在の顧客単価はまだ引き上げる余地があるのではないのでしょうか？

A：当社のリカーリング顧客の平均顧客単価は約2,500万円となっており、一定程度高い水準にあると認識し

ています。今後も、クロスセルやアップセルを通じた提供価値の拡大に伴って、顧客単価を引き上げていくことが可能であると考えています。

Q：FDE（Forward Deployed Engineer）はコンサルティングのように人手が必要となり、生産性や収益性が低下する懸念はありませんか？

A：FDE については現在 PoC の段階であり、具体的な料金体系やマネタイズ方法について検証を進めています。当社が目指しているのは、単純に人月単価で対価をいただくモデルだけではなく、提供した成果や価値に応じて収益を得られるモデルも志向しています。また、ワールドモデルでは FDE に加えてデータ連携によるマネタイズも想定しており、これらを組み合わせることで、高い収益性を持つ事業モデルを構築していきたいと考えています。

Q：Apple 等による位置情報取得に関する仕様変更や規制強化は、当社の事業にどの程度リスクがありますか？

A：位置情報を含むデータについて、利用者に適切に説明し、同意を得たうえで利用することは重要であり、当社も従来からこの考え方に基づいてデータを取り扱っています。当社が連携するアプリにおいては、位置情報の活用により、実際に利用者にメリットを提供することを前提としております。そのため、同アプリにおける位置情報取得の必要性を利用者にも感じていただきながら、そのうえで利用者に同意いただいたデータを利用しています。Apple 等による仕様変更はこれまでも行われていますが、こうした適切な同意取得を前提とした事業運営を継続する限り、現時点では当社事業への影響は限定的であると考えています。

Q：位置情報に関するリスクについて、個人投資家が確認しておくべきポイントはありますか？

A：個別の仕様変更が当社事業に与える影響を外部から定量的に判断することは容易ではありません。一方、地図アプリ等の位置情報を本来必要とするアプリにおいて、その利用が大きく制限されるような変更が行われる場合などは、当社事業への影響を検討する必要があります。当社としては、利用者にとって位置情報を活用する意義のあるサービスを通じて、適切な同意のもとでデータを取得・活用することが重要であると考えています。

Q：投影資料等で unerry のロゴをもっと積極的に活用してはどうでしょうか？

A：当社のロゴは創業以来長く使用しており、大切なブランド資産の一つと考えています。今回いただいたご意見も踏まえ、今後はロゴをより積極的に活用し、当社のブランディング強化につなげていきたいと考えています。

なお、今年度は、株主の皆さまから幅広くご質問をお寄せいただけるよう、事前質問フォームを設置いたしましたが、事前のご質問はございませんでした。

総会動画 <https://vimeo.com/1231885377> 当日の進行や事業報告の様子はこちらからご覧いただけます。

以上